

17. エゾノウサギの防除

1. 試験担当者

北海道支場保護部野鳥研究室 柴田義春，上田明一
山本時夫

2. 試験目的

エゾノウサギは狩猟鳥獣であるため、その防除法は種々制約されている現状にあり、また林木の被害もきわめて大きい。このため合理的な防除対策を検討する必要がある。従って本種の季節的生息場所、生息密度、行動などを調査し、防除法の基礎的資料をうる。

3. 昭和44年度の経過とえられた結果

カラマツ造林地における野兎の生息状態と密度の調査について、主として一定地域内の野兎の行動（移動と侵入）を6～12月にわたり標識方法によって調査した。この結果、春に出現した個体が、秋に再び出現することはみられなかった。したがって夏季といえども一定地域内における野兎の生息は絶えず新しい個体によっておきかわり個体間の移動と侵入がはげしく行なわれていることが認められた。

生息個体数の算定法の基礎試験として生捕り罠による捕獲法と雪上に残される足跡数を組合わせ、両者の近似性の検討を行なった。

4. 昭和45年度の試験計画

生息環境の解析調査はカラマツの幼令造林地において45年6月より46年3月までの期間、生捕り罠を用い調査を行なう。

また生息個体数の算定法の試験は冬季に足跡により算定法を組入れて実施する。